

問題・解答  
用紙番号

27

の解答用紙に解答しなさい。

## 世 界 史

〈受験学部・学科〉

### 3 科目型 受験者

法学部，国際学部，経済学部，経営学部，現代社会学部，  
農学部(食農ビジネス学科【文系科目型】)

問題は100点満点で作成しています。

I

国際的連携や同盟に関する次の文章(A)～(C)を読み，あとの設問に答えよ。(40点)

(A) ペルシア戦争ののち，ペルシアの再侵攻にそなえてエーゲ海周辺のポリスはアテネを盟主として <sup>(a)</sup> (1) 同盟を結んだ。アテネが勢力を広げるなかで，<sup>(2)</sup> (2) 同盟の盟主であるスパルタはアテネに脅威を感じ，両者は対立を深め，やがて <sup>(2)</sup> (2) 戦争が始まった。はじめはアテネが優勢であったが，ペリクレスの死後，政治が混乱し，ペルシアが支援したスパルタに敗れた。その後，スパルタにかわり，<sup>(b)</sup> テーベが一時的に主導権をにぎるが，ペルシアがギリシア人同士の争いに介入したため，ギリシアは混乱が続いた。前4世紀後半，ギリシアの北方のマケドニアが <sup>(3)</sup> (3) のもとで軍事力を強め，前338年の <sup>(4)</sup> (4) の戦いでテーベとアテネの連合軍を破った。<sup>(3)</sup> (3) はスパルタを除く全ギリシアのポリスをコリントス同盟(ヘラス同盟)に集め，それらを支配下においた。<sup>(3)</sup> (3) の子である <sup>(c)</sup> アレクサンドロス大王は，ペルシアを討つため，前334年，東方遠征に出発した。

(B) ドイツ＝フランス戦争(プロイセン＝フランス戦争)ののち，ドイツ帝国の宰相ビスマルク <sup>(d)</sup> は外交政策として，ドイツ・オーストリア・<sup>(5)</sup> (5) の三帝同盟やドイツ・<sup>(5)</sup> (5) の再保障条約などを結んで，フランスの孤立をはかった。また，<sup>(5)</sup> (5) =トルコ戦争により，<sup>(5)</sup> (5) がバルカン地域に進出したことに対してオーストリアなどが反対したため，ビスマルクは ベルリン会議を開いて対立を調停した。その後，<sup>(e)</sup> <sup>(6)</sup> (6) がドイツ皇帝に即位すると，ビスマルクを引退させ，「世界政策」という積極的な対外膨張政策に乗り出した。

(C) ドイツ軍がポーランドに侵攻したことで、イギリスとフランスはドイツに宣戦し第二次世界大戦が始まった。ドイツ軍はパリを占領し、フランスは降伏した。フランスの国土の約5分の3はドイツ軍に占領され、南部はドイツに協力するペタン元帥の ヴィシー政府<sup>(f)</sup> が統治した。しかし、(7) を中心とする抗戦派はロンドンに自由フランス政府をたて、国民に抵抗運動を呼びかけた。連合国軍によってパリが解放されたのち、(7) は帰国し、臨時政府を組織した。一方、イギリスではチェンバレンにかわって (8) が首相となり、ドイツによる激しい空襲を耐え抜き、ドイツに上陸作戦を断念させた。また、(8) は アメリカ合衆国大統領と会談し<sup>(g)</sup>、そこで大西洋憲章が発表された。

問1. 空欄 (1) ～ (8) にもっとも適切な語を記入せよ。

問2. 下線部(a)～(g)について、以下の問いに答えよ。

(a) ペルシア戦争に関する説明のうち、誤っているものを一つ選べ。

- ㊦ ギリシアの諸ポリスがアケメネス朝ペルシアとたたかった。
- ㊦ サラミスの海戦ではペルシアが勝利した。
- ㊦ プラタイア(イ)の戦いではギリシア側が勝利した。
- ㊦ ヘロドトスはこの戦争を主題とした『歴史』を著した。

(b) ペリクレスに関する説明として、正しいものを一つ選べ。

- ㊦ アテネではじめて法律を成文化した。
- ㊦ 陶片追放(オストラキスモス)の制度を創設した。
- ㊦ アテネを指導し、民会を中心とした民主政を実現した。
- ㊦ アテネの三大悲劇詩人の一人で、『オイディプス王』を著した。

(c) アレクサンドロス大王に関する説明として、正しいものを一つ選べ。

- ㊦ ホルテンシウス法を制定した。
- ㊦ カルタゴと衝突し、ポエニ戦争をおこした。
- ㊦ イッソスの戦いでペルシア軍に勝利した。
- ㊦ ガリアに遠征し、その戦記を著した。

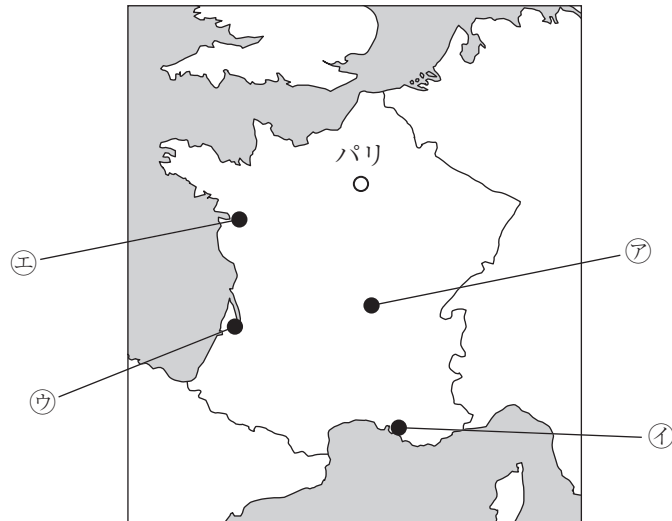
(d) ドイツ＝フランス戦争に関する説明として、正しいものを一つ選べ。

- ㊦ ナポレオン3世が捕虜となった。
- ㊦ 戦後、ルイ18世がフランス王に即位した。
- ㊦ フランスはアルザス・ロレーヌを獲得した。
- ㊦ 世界ではじめて戦場で毒ガスが使用された。

(e) このベルリン会議で破棄されたのは何条約か。正しいものを一つ選べ。

- ⑦ ロカルノ条約                      ① トリアノン条約  
⑧ カルロヴィッツ条約                ② サン＝ステファノ条約

(f) この政府がおかれたヴィシーの位置はどこか。地図中の記号㉗～㉙から正しいものを一つ選べ。



(g) このときのアメリカ合衆国大統領は誰か。正しいものを一つ選べ。

- ア ウイルソン                      イ ジャクソン  
ウ レーガン                        エ フランクリン＝ローズヴェルト

問3. 文章(A)～(C)にウィーン体制とヴェルサイユ体制を加えて、年代順に古いものからならべたものとして、正しいものを一つ選べ。

- ア (A)→ウィーン体制→(B)→ヴェルサイユ体制→(C)  
 イ (A)→ウィーン体制→ヴェルサイユ体制→(B)→(C)  
 ウ (A)→(B)→ウィーン体制→(C)→ヴェルサイユ体制  
 エ (A)→(B)→ウィーン体制→ヴェルサイユ体制→(C)

Ⅱ 次の文を読み、あとの設問に答えよ。(30点)

14世紀後半、日本・朝鮮・中国の私貿易商人らは軍事集団を形成し、朝鮮や中国の沿岸を襲った(前期倭寇)。明が成立すると、<sup>(a)</sup>洪武帝は倭寇を力でおさえこむ方針をとり、沿海部の治安維持のために民間の海上貿易を禁止し(海禁)、朝貢に応じない国や民間商人を貿易からしめだした。朝鮮半島では、倭寇の撃退に功績のあった李成桂が  (1) を倒して <sup>(b)</sup>朝鮮(李朝)をたて、明の冊封をうけた。

洪武帝の没後、第2代皇帝の  (2) が北方の諸王への統制を強めると、<sup>(c)</sup>洪武帝の息子の一人である燕王が挙兵し、南京を占領して帝位についた(永楽帝)。彼は都を  (3) に移し、みずから軍を率いてモンゴル高原に遠征するなど積極的な対外政策をとった。また、ムスリムの宦官である鄭和に大艦隊を率いさせ、東南アジアやインド洋に派遣した。

15世紀初めに中山王によって統一された  (4) は、明の冊封をうけ、東アジアや東南アジアと盛んに交易をおこなった。一方、14世紀末頃マレー半島南西部に成立した  (5) 王国も、鄭和の遠征をきっかけに急成長し、インド洋と南シナ海と東南アジアの流通網を結びつけ、東南アジア最大の交易拠点となった。

16世紀には世界的に商業が活発になり、明の周縁では海禁に反して貿易をおこなおうとする内外の勢力が出現した。北方からはモンゴルの  (6) =ハーンが侵入をくりかえした。また、南方では海上での私貿易や海賊活動が再び激化した(後期倭寇)。16世紀後半、明は  (6) =ハーンを冊封するとともにモンゴルとの交易をおこない、海禁をゆるめて沿岸での私貿易や海外渡航も部分的に認めた。徽州商人や山西商人は明王朝と結びついて特権を得て、活動範囲を広げ、海上貿易では福建や広東の商人が活動した。おもに陶磁器と生糸が明から世界各地に輸出され、大量の銀が中国にもたらされた。そこで、各種の税や労役を一括して銀でおさめる  (7) が広まった。

17世紀に入ると、<sup>(d)</sup>明との交易で力をつけた女真が台頭した。  (8) の乱で明が滅びると、女真がたてた清は  (3) に入城して遷都し、  (8) を倒して、中国皇帝の位も継承した。一方、東南沿海で武装貿易船団を率いて清に抵抗していた鄭成功とその一族は <sup>(e)</sup>台湾を占領し、これを拠点とした。清はきびしい海禁をしいて対抗したが、1683年に鄭氏政権を降伏させると、翌年、海禁を解除して開放策に転じ、その後、海上貿易は順調に発展した。18世紀半ばに、乾隆帝は治安上の理由からヨーロッパ船の来航を  (9) 1港に制限し、公行(特許商人の組合)をとおして貿易がおこなわれた。税制では、18世紀初めの  (10) により、丁税(人頭税)が土地税にくり込まれて制度の簡略化がはかられた。

(10)

問2. 下線部(a)~(e)について、以下の問いに答えよ。

(a) 洪武帝に関する説明として、正しいものを一つ選べ。

- ㉦ 満洲人と漢人を主要職に同数配置する満漢併用制を採用した。
- ㉧ 直属の補佐組織として軍機処を設けて、戦争・外交の指揮にあたった。
- ㉨ 政治の中枢をにぎっていた中書省を廃止して、皇帝に権力を集中させた。
- ㉩ 皇帝を補佐する機関として内閣を設け、内閣大学士を重要政務に参加させた。

(b) 朝鮮（李朝）に関する説明のうち、誤っているものを一つ選べ。

- ⑦ 訓民正音（ハングル）が制定された。
- ① 日本と条約を結び、釜山など3港を開港した。
- ㉡ 仏国寺などの寺院が建立され、仏教文化が栄えた。
- ㊥ 両班といわれる有力な家柄が官僚の大部分を占めるようになった。

(c) このできごとは何と呼ばれるか。正しいものを一つ選べ。

- ア 靖康の変      イ 靖難の役      ウ 党錮の禁      エ 土木の変

(d) 女真のおもな交易品は何か。正しいものを一つ選べ。

- ア 香辛料・香木  
イ 象牙・サイ角  
ウ ぶどう酒・ガラス  
エ 薬用人参<sup>にんじん</sup>・毛皮

(e) 台湾に関する説明として、正しいものを一つ選べ。

- ア ロシアがアイグエン条約を締結して獲得した。
- イ ポルトガルが居住権を得て、交易の根拠地とした。
- ウ オランダが領有して、東シナ海交易の拠点とした。
- エ イギリスがアヘン戦争に勝利し、南京条約で割譲させた。

- Ⅲ アジア世界に関する次の文章(1)～(4)には、下線部が正しいものと正しくないものがある。正しいものについてはアを、正しくないものについてはイ～オからもっとも適切なものを選び。(30点)

(1) 南アジア最古の文明は、前2600年頃におこったクレタ文明である。パンジャブ地方のハラッパーやシンド地方のモヘ(エ)ンジョ=ダ(ー)ロといった遺跡で知られるが、遺跡の分布範囲がきわめて広大である。この文明の特徴として、大量の焼き煉瓦<sup>れんが</sup>をもちいた計画的な都市建設でありながら、他方で宮殿や神殿などの国家的な権威を示すものがないことが挙げられる。

イ インダス      ウ エーゲ      エ オリント      オ メソポタミア

(2) 南アジアにおける最初の統一王朝はマウリヤ朝である。同朝の最盛期は第3代アショーカ王の時代であり、帝国の領域は最大となった。王は征服時の虐殺行為への反省から仏教への帰依を深めたとされる。そして、各地にダルマ(法、守るべき社会倫理)を説く詔<sup>しやうちよく</sup>勅を刻ませて、多様な社会を倫理的に統合し、帝国秩序の安定をはかった。

イ カニシカ      ウ チャンドラグプタ      エ ハルシャ      オ ハンムラビ

(3) 前4世紀になると、中国の影響をうけてインド北部を中心に独特な青銅器や鉄製農具をうみ出したドンソン文化が発展した。この文化を特徴づける青銅製の銅鼓<sup>どうこ</sup>は、中国南部から東南アジアの広い地域で発見されており、当時の交易の広がりを物語っている。

イ イラン      ウ エジプト      エ スリランカ      オ ベトナム

(4) 前2世紀にマウリヤ朝が衰退したのち、前1世紀頃に成立したサータヴァーハナ朝がデカン高原からインド洋沿岸にかけての広い領域で勢力をもった。この王朝のもとでは、インド洋の海上交易が発展し、西方のローマや東方の東南アジアとのあいだで商品の交換がおこなわれた。また、北インドから多くのヴァイシャがまねかれたため、北インドと南インドとの文化交流がすすんだ。

イ クシャトリヤ      ウ ジャーティ  
エ シュードラ      オ バラモン

(5) 1世紀頃、メコン川下流域に扶南が建国された。この国の外港であったオケオの遺跡からはローマの金貨やインドのヴィシュヌ像、後漢の鏡など、東西の遺物が出土している。ローマ金貨には、2世紀のローマ皇帝ネルウァの肖像と銘がある。

㉠ デイオクレティアヌス

㉡ トラヤヌス

㉢ ハドリアヌス

㉣ マルクス＝アウレリウス＝アントニヌス

(6) 東南アジアでは、4世紀末から5世紀になると、南アジアから船舶が盛んに来航し、広い地域で「インド化」が始まった。7世紀半ばには、スマトラ島のパレンバンを中心にチャンパーが成立し、海上交易によって繁栄した。この国ではインドから伝わった大乘仏教が栄え、唐の義浄がインド留学からの帰国途上に滞在し、仏教が盛んな様子を記している。

㉠ アチェ王国

㉡ シャイレンドラ朝

㉢ シュリーヴィジャヤ

㉣ マジャパヒト王国

(7) 8世紀初め、アラブ＝ムスリムの遠征軍が中央アジアのオアシス地域を征服すると、この地の人々はしだいにイスラーム教を受容するようになった。アッバース朝のムスリム軍は751年にタラス河畔の戦いで唐軍を破り、その勢力を後退させた。やがて中央アジアとイラン東北部には、イラン系のゴール朝が成立し、アラビア文字で表記されるペルシア語などイラン＝イスラーム文化の基礎がうまれた。

㉠ ガズナ

㉡ カラ(＝)ハン

㉢ サーマーン

㉣ ハルジー

(8) 中央アジア出身でティムールの子孫であるアイバクは、カーブルを拠点にして北インドに進出した。彼は1526年のパーニーパットの戦いにおいて鉄砲や大砲などの火器を使用し、デリー＝スルタン朝最後のロ(一)ディー朝に勝利をおさめ、イスラーム王朝であるムガル帝国の基礎を築いた。

㉠ アウラングゼーブ

㉡ アクバル

㉢ ニザーム＝アルムルク

㉣ バール

(9) ヨーロッパ各国の東インド会社のうち、1602年設立のオランダ東インド会社はジャワ島西部のカルカッタを拠点に香辛料貿易を独占した。また日本との交易を維持し、大量の銀をもちだした。さらに北米大陸にも進出して、ニューアムステルダムを中心とする植民地を建設した。

㉠ アンボyna

㉡ ゴア

㉢ バタヴィア

㉣ ポトシ

(10) ビルマでは、18世紀半ばにおこったパガン朝が全土の支配を確立した。同朝はインド東北部のアッサム地方にも進出し、勢力を拡大していたが、インドで支配を広げるイギリスは3次にわたるイギリス=ビルマ戦争に勝利し、1886年にビルマ全土をインド帝国に併合した。

① ガージャール      ㊦ コンバウン      ㊥ マタラム      ㊧ ラタナコーシン

(11) 東南アジアのほとんどの地域がヨーロッパ諸国の植民地となるなか、植民地の圧力を唯一回避したのはシンガポールであった。同国ではヨーロッパ勢力から門戸開放の圧力が強まると、19世紀後半のラーマ4世の時代に自由貿易の原則が確認されて、つぎつぎと欧米諸国との外交関係が結ばれた。その後、チュラロンコン（ラーマ5世）のもとで近代化政策（チャクリ改革）がすすめられ、教育に西欧的な制度が導入された。

① カンボジア      ㊦ タイ      ㊥ フィリピン      ㊧ ラオス

(12) ヨーロッパ列強の進出と支配は、西アジアでも抵抗と変革を呼びおこした。なかでもイラン出身のムハンマド=アリーは、帝国主義とイスラーム諸国での専制をともに批判し、パン=イスラーム主義による全ムスリムの団結を説き、各地のムスリムによる民族運動やイスラーム改革運動に思想的影響を与えた。とりわけ大きな影響をうけたのが、エジプトにおけるウ(オ)ラービー運動やイランのタバコ=ボイコット運動であった。

① アギナルド      ㊦ アフガーニー  
㊥ ティラク      ㊧ ホセ=リサル

(13) オランダ支配下のインドネシアでは、1920年に結成されたインドネシア共産党が急速に勢力を拡大し、スマトラ島やジャワ島で蜂起したが、オランダ軍によって壊滅させられた。その後、1927年にスハルトが中心となってインドネシア国民同盟を結成、翌28年にはインドネシア国民党と改名した。同年には、インドネシアという統一された祖国・民族・言語をめざす「青年の誓い」宣言がなされた。

① イブン=サウード      ㊦ シハヌーク  
㊥ スカルノ      ㊧ ムスタファ=ケマル

(14) 第二次世界大戦後、イギリスからの独立が予定されていたインドでは、パキスタンの分離・独立を求める全インド=ムスリム連盟のレザー=ハーンと統一インドを主張する国民会議派のガンディーらに対立した。1947年にイギリス議会でインド独立法が制定されると、ヒンドゥー教徒を主体とするインド連邦とイスラーム教徒によるパキスタンの2国にわかれて独立した。

① カストロ      ㊦ ジンナー      ㊥ ネルー      ㊧ モサ(ツ)デグ

(15) インドシナ戦争を終結させたジュネーヴ休戦協定では、その後南北ベトナム統一のための選挙をおこなうことになっていたが、選挙は実施されず、ベトナムは北緯17度線を境に南北に分断された。南ベトナムでアメリカ合衆国に支援されたアウン=サンが権力をにぎって独裁的な支配をおこなうと、1960年には、それに対抗する勢力として南ベトナム解放民族戦線が結成された。

① ゴ=ディン=ジエム

㊦ バオダイ

㊥ ホー=チ=ミン

㊧ マンデラ